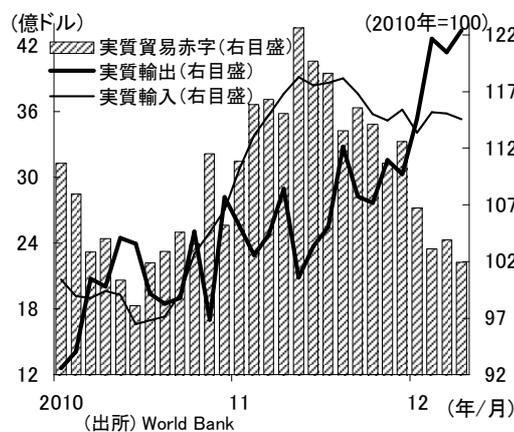


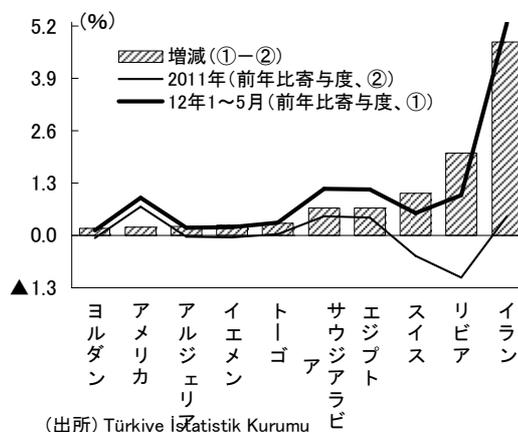
外需強まるトルコ ～ 在庫減でマイナス成長 ～

- (1) トルコは本年1～3月期、前年比は3.2%と市場予想を若干上回ったものの季調済前期比年率では▲1.7%のマイナス成長に。前年比の成長率も11年1～3月期の11.9%から期を追って鈍化。先行き懸念の見方が拡がり。しかし、各需要項目に季節調整を施すと、マイナス成長は在庫減が主因。さらに内需は緩やかな増加にとどまるものの、輸出が増勢加速。予期せぬ輸出増で在庫が大幅減。輸出や内需が底堅く推移すれば、在庫積み増しで4～6月期以降、プラス成長、さらに成長ペース加速の筋合い。
- (2) そこで輸出動向をみると本年入り後、実質輸出が大幅増（図表1）。一方、実質輸入は昨秋来、一進一退。実質貿易赤字は昨年5月をピークに、ほぼ月を追って減少。成長率からみれば、少なくとも本年4月まで外需がプラス寄与。次いで輸出の国別動向をみると、これまで同国輸出を支えてきたドイツやフランス、イタリアなど欧州向けは本年入り後、大幅減。一方、リビアやエジプトなど中東各国向けが、このところ大きく増加（図表2）。イラン向け輸出は一時的盛り上がりの可能性が大きく、先行き不透明との指摘も。
- (3) もっともリビアやエジプトなどアラブの春エリアについてみれば、政権移行に伴う混乱の終息に伴い需要増の公算大。エジプトの主要産業である観光業では、旅行者数では既往ピーク未達ながら滞在日数ベースでは、ほぼ革命前の水準回復。さらに天然ガスの生産量や発電量でも月毎の変動は残るものの、昨秋来、着実な増勢回復（図表3）。
- (4) 根底には、中東各国で拡がるトルコを肯定的・積極的に評価する動き。加えて、既往リラ安も後押し。国内では雇用増に伴い失業率が着実に低下（図表4）。流動的な中東情勢に左右される側面が依然大きいものの、以上の視点からみれば、今春以降、着実な成長軌道復帰の公算大。

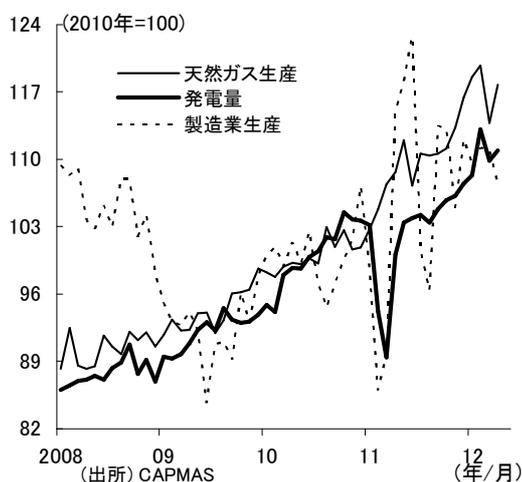
（図表1）トルコの実質貿易赤字と実質輸出入（季調済）



（図表2）トルコの主要国別輸出金額



（図表3）エジプトのガス・製造業生産と発電量（季調済）



（図表4）トルコの雇用者数と失業率（季調済）

